

自然再生協議会全国会議の 開催について

令和元年9月18-19日 開催
於：山口県山口市

令和元年度自然再生協議会全国会議の概要

■開催場所

- 山口県山口市
- 榎野川河口域・干潟自然再生協議会の取組エリア

■参加者 75名

自然再生協議会	:	19協議会	:	54名
協議会を目指す組織	:	3協議会	:	7名
自然再生専門家会議委員	:		:	5名
(鷺谷委員長、大河内委員、志村委員、高山委員、和田委員)				
関係省庁	:		:	4名
その他	:		:	5名



■スケジュール

9月18日(1日目) 現地調査

- ①長浜干潟(カブトガニ生息状況調査)
- ②きらら浜自然観察公園

9月19日(2日目) 会議

- ・自然再生基本方針の見直しについて
- ・分科会、全体意見交換会、専門家会議委員による講評 等

1日目 取組説明

榎野川河口域・干潟自然再生協議会の取組の説明

【概要】

- 干潟環境改善のため、硬質化した干潟の耕転を実施。協議会のシンボリックな活動となっており、400人を超える参加者。伊藤園からお茶を安く提供頂くなど企業からも支援。
- 被覆網等でアサリの食害防止に努めた結果、漁獲量が増加。潮干狩り体験を開催し、300人以上が参加。また、朝市や道の駅でアサリを販売し、販売収益や参加料で活動資金を確保。
- カブトガニの生息状況調査を15年以上継続しており、生物多様性のアクション大賞（2017）に入賞。
- 「ふしの干潟ファンクラブ」を平成30年に立ち上げ。イベントごとに2、3名が新規入会しており、現在の会員は約50名に増加。
- 「ふしの干潟生き物募金」を創設。住民や企業等から幅広く、継続的に協力を受けるしくみづくりなどを工夫。



里海再生の活動① 干潟耕転〈南潟〉

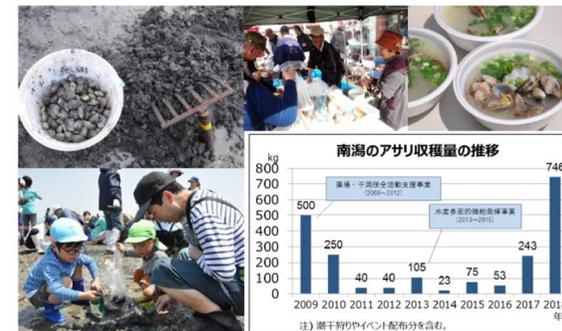
● 親水性の向上



- ✓ 地域の貴重な自然に対する関心の高まり
- ✓ ボランティア活動等を通じて、**多様な主体の連携が促進**
 - ・春の干潟再生活動参加者：420人（2019年）
 - ・関係企業：8社
 - ・教育機関：山口大学、水産大学校、山口県立大学 等

里海再生の活動② アサリ再生活動〈南潟〉

● 地元産アサリの復活



- ✓ **約20年ぶりのアサリ漁獲**
- ✓ 昨年は、**過去最高の746kgの収穫**、**300人以上が潮干狩り**を体験
- ✓ 不定期ながら、**地元の朝市や道の駅での販売も再開**

1日目 現地調査①

長浜干潟でのカブトガニ生息調査



1日目 現地調査②

きらら浜自然観察公園



2日目 会議

分科会

「立ち上げ」「人材の育成・確保」「資金確保」について意見交換

グループA : 自然再生協議会の立ち上げについて

- 協議会化した経験からは、地方行政機関を巻き込めるメリットが大きい。担当者限りではなく継続的な行政の関与が担保され、関係行政機関との高い調整能力も活用できる。
- 協議会ができればテーマが明確になり、他の民間団体が参画しやすい。地域の盛り上がりを待つのではなく、先に協議会をつくってしまうことが重要。
- 様々な意見がでるので、科学的知見に基づいた情報が重要となることに注意が必要。

グループB : 自然再生協議会活動の継続性について（人材の育成・確保）

- 子どもへの教育や企業に対してメリットがある内容を提供していくことが重要。
- 活動に対する愛着や思い入れといった個人のエネルギーをうまく育てることが重要。参加者をやりたいところにマッチングさせて、活躍してもらう工夫が重要。
- 新規加入者に対する不安や心配もあるが、積極的に巻き込み、活動を行っていく中で信頼関係を醸成していくことも重要。

グループC：自然再生活動の継続（さらなる活性化）のための資金確保について

- 助成金獲得のため、ファンドレイザー※の利用や、顕彰等で組織の信頼性を高めることも重要。
- 助成金は半額補助が多いため、基金等により自己資金を前年度から集めることも重要。
- ふるさと納税（特産品、税の使途）を活用するのも効果的ではないか。

※ファンドレイザー：主に民間非営利団体での資金調達を専門に行う職業、有資格者



全体意見交換会

■ 事業運営するための予算はどのように確保していますか。（コウノトリが舞う里づくり推進協議会）

- 環境修復事業については、電気事業企業の受託研究として実施。（中海自然再生協議会）
- 草刈りボランティア運営のための経費は、地元企業からの寄付も活用。（伊島ささゆり保全の会）

■ 地元経済あるいは観光と連携した取組があれば教えてください。（石西礁湖自然再生協議会）

- 「ふしの干潟いきもの募金」創設のほか、寄附付商品の開発・販売を実施。「ふしの干潟ファンクラブ」の創設により、ボランティアの人手や興味を持つ人が増加。（榎野川河口域・干潟自然再生協議会）
- 「中海周遊サイクリング」に関連した利活用推進の調査を開始。（中海自然再生協議会）

ふしのがわかこういき・ひがたしぜんさいせいきょうぎかい

榎野川河口域・干潟自然再生協議会

再生 目標

人が適度な働きかけを継続することで、自然からのあらゆる恵みを持続的に享受できる場、「里海」を再生する。



榎野川河口域から山口湾においては、344haの広大な干潟が広がり、クロツラヘラサギなどの様々な鳥類の餌場・休息場、カブトガニの生息場になっており、「日本の重要湿地500」にも選ばれている全国的にも重要な地域です。

しかし、浮泥の流入、カキ殻の堆積、干潟の硬質化・無機質化、アマモ場の激減、アサリの壊滅など、干潟生態系の改変・改質が生じています。

このため、榎野川河口域・干潟の自然環境を再生し、維持していくための取組を進めています。

自然再生の手法

- カキ殻の粉碎などによる底質環境の改善
- 科学的な分析・評価による干潟への働きかけ
- 再生活動が持続される体制づくり

干潟等での活動



干潟耕耘作業



アサリ再生活動



海岸清掃



生き物観察会



潮干狩り体験



カブトガニ（幼生）

(H31. 4現在)